

造船業について

【世界をリードする日本の造船業界】

日本の造船業は、世界単一である造船マーケットの中で、世界を相手に競い合ってきました。1956年には英国を抜いて世界一の造船国となりましたが、その後、需要の減退と回復を経て、2006年には史上最高の新造船建造量を記録—日本の造船業は、半世紀以上にわたり、世界トップクラスの地位にあります。

近年、韓国や中国との国際競争が激しさを増していますが、日本は、最先端の技術を有する造船業、需要先である海運会社、エンジンや鋼材などを供給するメーカーが国内に集積し、大きなシナジー効果を発揮できる稀に見る国です。また、高い技術力を保持する優秀な人材も強みの一つです。船という巨大な製品は、設計、製造、営業など、さまざまな部分に携わる多くの人の手によってつくられていきます。仕事におけるチームワークは、造船業にとって不可欠なものです。多くの力で巨大な船をつくる、これが「ものづくり産業・造船」の魅力と言えるでしょう。

日本造船業は今後も、技術・技能分野の人材の確保と育成に力を入れ、省エネルギーや環境対応技術などで、世界をリードしていきます。

【船は世界の生命線 ～経済と生活を支えるライフライン～】

資源が乏しく、四方を海に囲まれた日本は、人々の生活や経済活動に必要な多くの物資を海外に依存しています。その物資輸送を支えているのが「船」です。日本の全貿易量の99.7%にあたる9億6千万トンの物資が船によって運ばれています。

近年、中国をはじめとするBRICs諸国の目覚ましい経済発展を背景に、海上輸送量は飛躍的に伸びており、また、企業の生産・販売拠点の世界的な広がりとともに、国際物流はますます多様化していくことでしょう。これらの増大する需要と多様化するニーズに応えるため、日本の造船業界は、安全性が高く、経済的・技術的に優れ、しかも環境にやさしい船舶を世界の海運に供給していきます。

【他産業とは違うものづくり ～ITと匠のコラボレーション～】

船は工業製品としては最大で、大きなものは全長300mを超えます。また、船舶は船主が求める種類・大きさ・速力などの注文に応じて、一隻ごとに設計、建造されるオーダーメイドの製品です。受注から引渡しまでには多くの工程が存在し、建造期間は船種により異なりますが、1年を超える歳月を費やすものも珍しくはありません。これは、オートメーションで大量に生産される自動車などと大きく異なる点です。

近年では、船舶の設計に3D-CADが導入され、建造の効率化が進むなどIT技術が積極的に活用されています。一方、現場の生産ラインでは、まさに「匠の技」とも言える日本の造船業に脈々と培われた高度の技能が「船づくり」を支えています。

こうして多くの工程を経て完成した船が進水し、数十年にわたり、世界の海を航海する喜び——船づくりは「ものづくり」の醍醐味が凝縮された独特の「ものづくり」と言えるでしょう。

【若手従業員の声】

受注生産なので一船一船違う船を造れて、製造現場の全工程に関与ができる。私達の仲間に入り、一枚の鉄板から型ある船にしていく喜びを共に感じていきましょう。



墨田川造船株式会社
入社7年目
田畑 人志